第662号　展示と催し物案内

東京国立博物館ニュース

2003 11・12月号

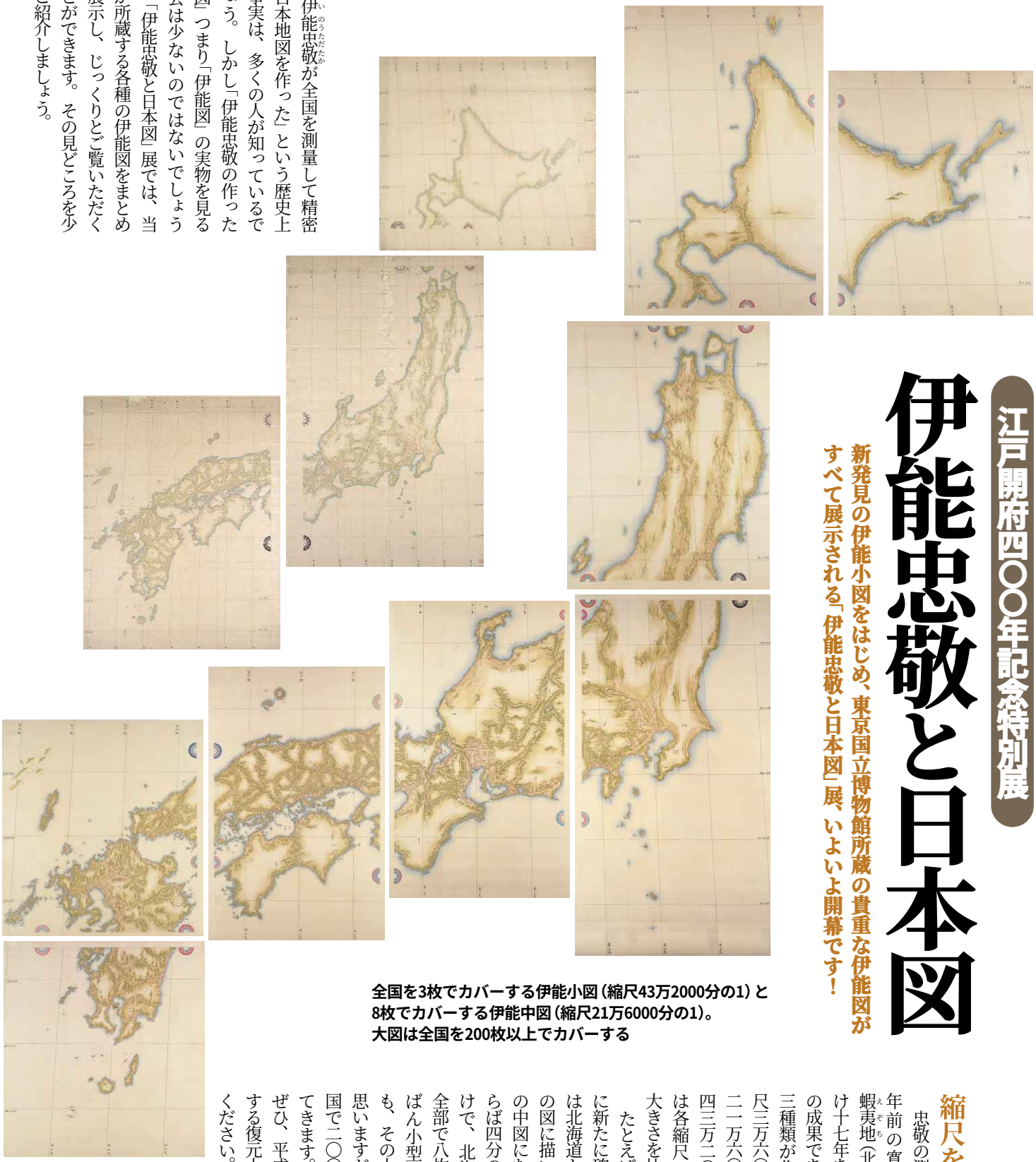
江戸開府400年記念特別展 伊能忠敬と日本図 ● 2
こどもミュージアム「測量っていいのぅ～!? 伊能忠敬の日本地図」● 4
特別展 国宝 大徳寺聚光院の襖絵 ● 5
特別展 煌(きらめ)きのダイヤモンド―ヨーロッパの宝飾400年― ● 6
平常展見どころ案内 2003年11・12月 ● 7
特別公開 国宝 観楓図屏風／特集陳列「那智山出土の仏教遺物」
特集陳列「考古コレクションの形成と先人の足跡」など
はくぶつかん散歩 表慶館のライオン ● 10
新春企画 博物館に初もうで ● 11
美術体験学習 岩絵具って何？ 使ってみよう ● 11
誌上ギャラリー・トーク「Soul and Beauty of Japan―日本の美 日本の心―」● 12
INFORMATION コンサート／賛助会／巡回展 ● 14
TOPICS／Who's Who in 東博 ● 15
2003年11月・12月の展示・催し物 ● 16

江戸開府四〇〇年記念特別展

伊能忠敬と日本図

新発見の伊能小図をはじめ、東京国立博物館所蔵の貴重な伊能図がすべて展示される「伊能忠敬と日本図」展、いよいよ開幕です！

「伊能忠敬（いのうただたか）が全国を測量して精密な日本地図を作った」という歴史上の事実は、多くの人が知っているでしょう。しかし「伊能忠敬の作った地図」つまり「伊能図」の実物を見る機会は少ないのではないでしょうか。「伊能忠敬と日本図」展では、当館が所蔵する各種の伊能図をまとめて展示し、じっくりとご覧いただくことができます。その見どころを少しご紹介しましょう。



全国を3枚でカバーする伊能小図（縮尺43万2000分の1）と8枚でカバーする伊能中図（縮尺21万6000分の1）。大図は全国を200枚以上でカバーする

縮尺をくらべる

忠敬の測量事業は今から約二〇〇年前の寛政十二年（一八〇〇）の蝦夷地（えぞち）（北海道）測量に始まり、足かけ十七年をかけて完成しました。その成果である日本地図は、縮尺別に三種類が作成されました。大図（縮尺三万六〇〇〇分の一）、中図（縮尺二一万六〇〇〇分の一）、小図（縮尺四三万二〇〇〇分の一）です。当館は各縮尺の伊能図を所蔵しており、大きさを比較することができます。

たとえば、平成十四年（二〇〇二）に新たに確認された小図の日本全図は北海道から九州までの範囲を三枚の図に描いています。その倍の縮尺の中図になると、同じ大きさの紙ならば四分の一の面積しか入らないわけで、北海道や九州は二分割され、全部で八枚の地図になります。いちばん小型の小図一枚を見ただけでも、その大きさに圧倒されることと思いますが、これが大図になると全国で二〇〇枚以上の図が必要になってきます。どれくらい大きいかは、ぜひ、平成館ラウンジに広げて展示する復元大図の上に立って実感してください。

＊◉は国宝、◎は重要文化財、○は重要美術品を表します。

朱線をたどる

忠敬たちは提出した地図を見るのが殿様やお偉方の武士たちであることを意識して、美しい地図作りに配慮しました。同時に自分たちの仕事の大変さや精密さをさりげなく強調することも忘れませんでした。ここでは、朱色の線に注目してください。まず、たいていの場合海岸線や街道にそってくねくねと走る細い朱色の線があります。これは忠敬たちの測量ルートです。ときたま海岸を通らないルートが見つかります。さしもの忠敬も踏査できなかった難所でしょうか。複雑な海岸線を粘り強く歩きつづける忠敬一行の姿を思い浮かべながら、たどってください。

もう一種類、地図上を縦横に走る朱の直線があります。こちらは測量地点から見通した山頂や岬の突端などの目標物に向かって引かれた方位線です。中図でいちばん目立つのはやはり富士山。たくさんの方位線は忠敬の測量のていねいさを示すものですが、当時どれくらい遠くから富士山頂を見通すことができたかも知ることができます。

伊能図には測量技術だけでなく、この時代の多くの情報がつめこまれています。今回、可能なかぎり多くの図を展示しますので、さまざまな眼で読み取っていただければ、幸いです。

（田良島　哲）

◎日本沿海輿地図（伊能中図）（部分）　江戸時代・19世紀　東京国立博物館蔵　海岸沿いや街道沿いなどの朱線は伊能の測量隊の進路を示す。富士山の頂上と測量地点を結ぶ方位線にも注目。約200km以上もはなれた三重県の伊勢の日和山からも測ることに成功している

殿様気分でじっくり見よう！

復元・伊能大図を平成館のフロアで展観

復元した伊能大図を平成館ラウンジのフロアに展開し、上に乗って間近にご覧いただきます。展示されるのは、関東地方を中心とした伊能大図約六十枚。北は福島県から西は京都府までカバーする地図をフロアに敷き詰めます。

展示される地図のオリジナルは、平成十三年（二〇〇一）にアメリカの議会図書館で発見された伊能大図です。この大図の正確な複製に、伊能忠敬の七代目の孫にあたる洋画家の伊能洋さんが彩色をほどこし、青い海や緑の山を鮮やかに引き立たせました。自分の住んでいる町や思い出の道をたどってみてください。

江戸開府４００年記念特別展
伊能忠敬と日本図
10月31日（金）～12月14日（日）
東京国立博物館　平成館

一般420（210）円　大学生130（70）円
＊（　）内は20名以上の団体料金です
＊障害者とその介護者1名は無料です。
　障害者手帳などをご提示ください
＊高校生以下、満65歳以上の方は無料です。
　年齢のわかるもの（生徒手帳、健康保険証、運転免許証など）をご提示ください

主　　催　東京国立博物館
特別協力　国土地理院

こどもミュージアム

測量っていいのぅ〜!? 伊能忠敬の日本地図

特別展「伊能忠敬と日本図」に関連して、伊能忠敬その人と地図作りについてわかりやすく解説するこどもミュージアム「測量っていいのぅ〜!? 伊能忠敬の日本地図」を開催します。

伊能忠敬ってどんな人？

伊能忠敬は、五十歳を過ぎてから江戸に出て、自分より十九歳も年下の幕府天文方高橋至時に入門、西洋天文学・西洋数学・天文観測学・暦学などを学びました。その後、幕府の命をうけて五十五歳から七十三歳で亡くなるまでの間、約三万五〇〇〇キロメートルの道を歩いて測量を行い、正確な日本地図を完成させました。その生涯について、測量を志した頃や測量中のエピソードなどを中心に、わかりやすくパネルや資料で解説します。

どうやって測量したの？

忠敬は北極星など、天体の高さを計って緯度を求める「象限儀」や、杖の先に磁石のついた「小方位盤」などを使って測量をしました。距離は「間縄」や「鉄鎖」という道具を使ったり、歩く歩幅を一定にして歩数から距離を求める「歩測」で測りました。この時代の測量についてわかりやすく解説し、忠敬の測量道具（レプリカ）も展示します。伊能忠敬がどんなふうに測量したのか、実際にさわって確かめてみましょう。（ただしさわれる展示は10月31日〜11月9日のみ）

ワークショップで地図となかよくなろう！

① 測量を体験して自分だけの地図を作ろう

日程：11月22日（土）　12月6日（土）
時間：10時30分〜、14時〜（各回1時間30分）
対象：小学校4年生〜中学生（定員20名）
自分の体やロープなどを使って、測量を体験します。その後、自分の住んでいる町や夢の町など、オリジナルの地図を作ってみましょう。

② 測量を体験して宝物をさがそう

日程：11月24日（月・休）　12月13日（土）
時間：10時30分〜、14時〜（各回1時間30分）
対象：小学校4年生〜中学生（定員20名）
自分の体やロープなどによる測量体験の後、宝物の地図をたよりに、博物館の構内にある宝物をみつけてください。

◆ ワークショップは事前申込制です

【申込方法】
官製往復はがきに、参加者の名前・学年・参加希望日と希望時間を明記し、返信用には郵便番号・住所・氏名をご記入のうえご応募ください（申し込み多数の場合は抽選）

【申込締切】
各日程の10日前まで必着
＊平日は学校の総合学習などグループでの申し込みも受け付けます。
事前に電話でお問い合わせください

【お問い合わせ・申込先】
〒110-8712　台東区上野公園13-9　東京国立博物館教育普及室
TEL（03）3822-1111（代表）

小象限儀（レプリカ）
国土地理院蔵　角度を測る道具

こどもミュージアム
「測量っていいのぅ〜!? 伊能忠敬の日本地図」
10月31日（金）〜11月9日（日）
平成館ガイダンスルーム
11月14日（金）〜12月14日（日）
本館特別第５室

主　　催　東京国立博物館
特別協力　国土地理院

親子でたのしむ「伊能忠敬と日本図」関連企画

親子でびっくり!? 地図でマジック

地図や測量を盛り込んだマジックショーを開催します。楽しい手品をきっかけに、地図や測量に興味をもっていただけるはず。特別展「伊能忠敬と日本図」を親子で楽しく鑑賞するための関連企画です。

11月29日（土）
10時30分〜11時20分　平成館大講堂
出演　東京アマチュアマジシャンズクラブ（TAMC）

◆ マジックショーは事前申込制です

定員　親子100組限定　先着順

【申込方法】
住所・名前（親子とも）・電話番号（FAX番号）を明記し、電話かFAXにてお申し込みください

【お問い合わせ・申込先】
東京国立博物館渉外課　TEL03-3821-9270　FAX03-3821-9680

狩野松栄・永徳親子による国宝の襖絵で飾られた聚光院方丈室中　会場では聚光院の建築空間を再現

特別展 国宝 大徳寺聚光院の襖絵

狩野永徳24歳。桃山美術はこの襖から生まれた。

大徳寺の塔頭聚光院の障壁画は、桃山時代の美術を語る上で不可欠の作品です。これまでも展覧会に出品されたことはありましたが、一部の襖に限られ、障壁画の全体を見ることはできませんでした。聚光院は通常非公開ですが、一年に数日を限って特別公開されることがあります。このときには全体を見ることができますが、部屋の外から拝見するため、筆のタッチなど細かな描写を見ることはできません。

聚光院の襖絵は、建築にあわせて、立体性を考慮した画面構成となっています。その特徴を鑑賞するためには、立体的な展示が不可欠です。今回の展覧会では、国宝に指定されている狩野松栄・永徳父子が描いた襖全てを東京に運び、建築にあわせた立体的再現展示を行います。これにより、部屋全体の空間構成を感じながら、同時に細部を見るという、今まで不可能であった見方が可能になりました。

聚光院は永禄九年（一五六六）に創建され、襖絵もこのとき同時に描かれたものとされてきました。永禄九年は、政治史にもとづいた時代区分では室町時代にあたりますが、日本美術の概説書を見ますと、永徳の描いた襖絵は、ほとんどの場合桃山時代の項目に登場します。狩野永徳は、桃山時代の美術様式をこの襖絵により作りだしたのです。暴力的とも言える力強い描写、画面にみなぎる圧倒的なエネルギー、この絵の中にあるのは桃山時代の空気そのもの。来るべき天下統一の時代感覚をこの絵は既にあらわしているのです。

会場には永徳筆の「許由巣父図」など、障壁画との比較作品も展示。また、三好長慶や開祖笑嶺宗訢の画像、聚光院を墓所とした千利休愛蔵の茶壺「橋立」とそれをめぐる自筆書状もご覧いただきます。また、聚光院伊東別院の千住博筆の襖絵もあわせて展示します。障壁画の空間と美を知る絶好の機会になるものと思います。

（田沢裕賀）

花鳥図（部分）　狩野永徳筆
細部の細やかな筆致に注目！

国宝 大徳寺聚光院の襖絵
10月31日（金）～12月14日（日）
東京国立博物館　平成館

一般1300円（1100円／950円）
高校・大学生800円（700円／500円）
小・中学生300円（200円／150円）
＊（　）内は20名以上の団体料金です
＊障害者とその介護者1名は無料です。障害者手帳などをご提示ください

主催　東京国立博物館　大徳寺聚光院
NHK　NHKプロモーション
日本経済新聞社

関連事業

■三千家による茶会

聚光院は千利休の墓碑があり、表千家、裏千家、武者小路千家の菩提所としても知られる、茶の湯にゆかりの塔頭です。本展を記念して三千家による茶会を催します

11月7日(金)　裏千家
11月14日(金)　表千家
11月20日(木)　武者小路千家
東京国立博物館　庭園内応挙館
＊各日午前の部（受付10時～12時15分）と午後の部（受付12時45分～14時45分）
＊一席は約一時間

【料　金】
3500円（一席）
＊茶券ご購入の方は、特別展「国宝 大徳寺聚光院の襖絵」をご覧いただけます

【申込方法】
はがきまたはFAXで、郵便番号・住所・氏名・電話番号・イベント名（「裏千家／表千家／武者小路千家による茶会」）・希望時間帯（午前／午後）と希望人数を明記の上、「聚光院展」イベント事務局までお申し込みください。茶券料金の振込口座をお知らせいたしますので、指定の期日までにご入金ください。ご入金確認後、茶券を郵送します

【申込先】
〒100-8066
日本経済新聞社　文化事業部
「聚光院展」イベント事務局
FAX　03-5255-2861

特別展 煌（きらめ）きのダイヤモンド ―ヨーロッパの宝飾400年―

歴史に煌くジュエリー約200件が展示されるダイヤモンド展から、主な作品をご紹介します

フランス王室の紋章ユリをデザインした高貴なリング。王室の一員が身につけたものでしょうか。ユリの花びらを表現したダイヤは、結晶の中のもっとも柔らかい部分をカットして表面を平らに磨きあげたテーブル・カットがほどこされています。ダイヤモンドカットのなかで初期に登場したカットです。

ユリのリング

ダイヤモンド、金、エナメル
17世紀　ベルギー・個人像
photo：Jacques Sonck, PMF, Antwerp

大小合わせて六六二個、計六一四カラットのダイヤモンドを使っています。このゴージャスなジュエリーの持ち主は、ポーランド国王フリードリッヒ・アウグスト三世の妃アマリア。娘マリア・アウグスタが生まれたときに国王が王妃に贈ったものです。サイドは裏側までダイヤの列が続き、波打つリボンが立体的に表現されています。まばゆい光に目がくらむばかりですが、細部もじっくりと見てみましょう。リボンの結び目にある大きなダイヤがひときわ高貴な輝きを放ち、幅広のリボンのまん中に嵌めこまれた小さなダイヤのジグザグの列はかわいらしさと軽やかさを演出しています。

ボウ・ストマッカー

ダイヤモンド、金、銀
1782年　ドレスデン国立美術館
グリーンヴォールト蔵

オーストリア帝国皇后エリザベート「愛称シシー」の肖像とエリザベート皇后の星のヘッド・ジュエリー

肖像（模写）：原作 1864年 ウィーン・王宮宝庫蔵
ジュエリー：ダイヤモンド、金、銀
1862年 ウィーン・ケッヒャート蔵
photo：MDD-Museen des Mobiliendepots-wien

輝く星のジュエリーは、一八六二年、オーストリア皇后エリザベートがジュエラーのケッヒャートに注文したものです。エリザベートの肖像を見ると、豊かに流れる髪にダイヤの星がちりばめられています。当時王侯貴族の女性は髪を高く結い上げ、ティアラを飾ることが一般的でしたが、エリザベートはこのように長くたらした髪型を好んだそうです。エリザベートは他にもたくさん星のデザインのジュエリーを注文しました。当時飛躍的な進歩を遂げた天文学への感心の高まりによるのか、星のジュエリーはこの時代に生まれ、十九世紀末まで流行しました。

（小林　牧）

煌（きらめ）きのダイヤモンド　―ヨーロッパの宝飾４００年―
10月7日（火）～12月21日（日）東京国立博物館　表慶館

一般1200（1000）円　高校・大学生800（700）円　小・中学生400（300）円
＊（　）内は、前売りおよび20名以上の団体料金
＊障害者とその介護者1名は無料です。障害者手帳などをご提示ください
主　　催　東京国立博物館　TBS　朝日新聞社
後　　援　外務省　文化庁　ベルギー大使館　TBSラジオ
特別協力　アントワープ州立ダイヤモンドミュージアム
協　　力　日本航空　社団法人日本ジュエリー協会
企画協力　アプトインターナショナル
◆巡回展　2004年１月９日（金）～2月27日（金）　大阪市立美術館

■次回特別展予告

亀山法皇７００年御忌記念特別展　南禅寺

京都・鎌倉五山の上とされ、禅宗寺院最高の寺格を有する、京都東山南禅寺の寺宝を一挙に公開する展覧会を開催します。創建に関わる亀山法皇の自筆の起願文（国宝）、御所の建物を移築したとされる大方丈（国宝）の障壁画をはじめ、貴重な宝物が公開されます。南禅寺の長い歴史の中で受け継がれてきた禅林文化の奥深さに触れていただく絶好の機会です。

2004年1月20日（火）～2月29日（日）
東京国立博物館　平成館
2004年４月6日（火）～5月16日（日）
京都国立博物館
主催：東京国立博物館　大本山南禅寺　朝日新聞社
後援：文化庁
協賛：凸版印刷

◎群虎図襖（部分）　狩野探幽筆
江戸時代　南禅寺蔵

■特別公開■

名画で楽しむ紅葉狩りの宴

観楓図屏風

11月5日(水)～12月14日(日)本館第17室

◉観楓図屏風　狩野秀頼筆　六曲一隻　室町時代～桃山時代・16世紀
金をつかわず素地に描かれた古風な名所風俗図。朱や群青の彩色が鮮やか

京都洛北、紅葉の名所高雄で紅葉狩りの宴を楽しむ人々のようすが描かれています。背景には神護寺の宝塔と雪を載いた愛宕社が見えます。清滝川の辺りでは女性達と子供らが洒落た衣装をまとって茶売りの茶や酒盃を片手に秋の美しい一時を楽しんでいます。橋上には笛を吹く一組の男性、橋を渡ろうとしているのは喝食（童僧）を伴った僧侶、そして僧侶の背後には車座になった男達が舞を舞い、謡を謡って酒宴に興じています。ここではひときわ鮮やかな二本の楓がまるで舞台に見立てられたようです。その上には今まさに白鷺が舞い降りようとしています。

この屏風には、かつてはもう一隻、春の名所絵が存在し、一双で四季名所風俗図であったと考えられています。描いたのは狩野秀頼。かれの活躍期は応仁の乱の荒廃から都がようやく復興した永禄年間頃にあたり、画中にはその頃の人々の衣食や芸能といった時世粧が細やかにちりばめられています。それら一つひとつが四季名所図という枠のなかで輝き、かけがえのない平和な時を謳い上げています。のちの遊楽図の先駆けともいえるいきいきとした描写をぜひお楽しみください。（小野真由美）

■工芸の至宝室■

贅沢で華やかな秀吉流

朱漆金蛭巻大小

10月28日(火)～12月21日(日)　本館第2室

刀と脇指の拵（外装）を、揃いの仕立てとすることは桃山時代の頃から行われるようになり、大小と呼ばれるようになりました。

この大小は、豊臣秀吉の指料で、秀吉の没後、越後新発田城主であった溝口秀勝に遺物として贈られ、溝口家に伝来したものです。鞘は朱漆地に幅の異なる二条の金の薄板を螺旋状に巻いた蛭巻とし、柄の頭と鞘の鐺も金無垢の金具が用いられています。蛭巻の太細の薄板の配置は大小で逆になっています。

江戸時代になると、裃姿には黒漆塗の鞘の大小といった規定ができてきますが、この大小は、それより前の桃山時代の華やかな雰囲気を伝えています。（池田　宏）

◎朱漆金蛭巻大小
桃山時代・16世紀
朱・金・黒のコントラストが美しい

■工芸■

那智の滝の宝もの

特集陳列「**那智山出土の仏教遺物**」

9月23日(火)～2004年1月4日(日)　本館第4室

熊野三山の一つ和歌山県東牟婁郡那智勝浦町に所在する那智山は、「一滝」と呼ばれる那智滝が、古くからご神体として信仰の対象となってきました。それを裏づけるように那智滝参道付近から大正七年（一九一八）と昭和五年（一九三〇）に経筒、仏像、鏡像、仏具等、大量の仏教遺物が発見されました。経筒が七〇口近くも出土しているので、大規模な経塚があったものと思われますが、とくに注目されるのは密教の金剛界曼荼羅の成身会を構成する仏像や三昧耶形が出土したことです。一般に曼荼羅は紙や絹布に描かれますが、これは半肉仏像と鋺形の蓮台上に置いた三昧耶形とで立体的に表したものであり、他に類例を見ないたいへん珍しいものです。（加島　勝）

金剛界成身会曼荼羅　三昧耶形　平安時代・12世紀
蓮台の上に手、三鈷杵、索が乗る不思議な造形がいかにも密教的

■国宝室■

平安仏画の傑作
虚空蔵菩薩像

10月28日(火)～12月7日(日)　本館第12室

虚空のような無量の徳を表したとされる虚空蔵菩薩。この画像は、海中から突き出た岩の上に蓮華を敷いて座り、右手を下げ（与願印）、左手で火炎宝珠を捧げ持つ姿に描かれています。菩薩はしなやかで的確な描線と穏やかな色彩、精緻な截金文様や銀泥で荘厳されています。さらに、円光が像全体を包み、いいようのない空間の広がりを生み出しています。宮廷関係での制作が考えられている、虚空蔵菩薩画像の最古の作例です。

全てが見どころといえる画像ですが、あえて見どころとして挙げたいのは部分の精緻さと全体のたおやかさが見事に調和している点。単眼鏡片手にじっくりとご覧ください。

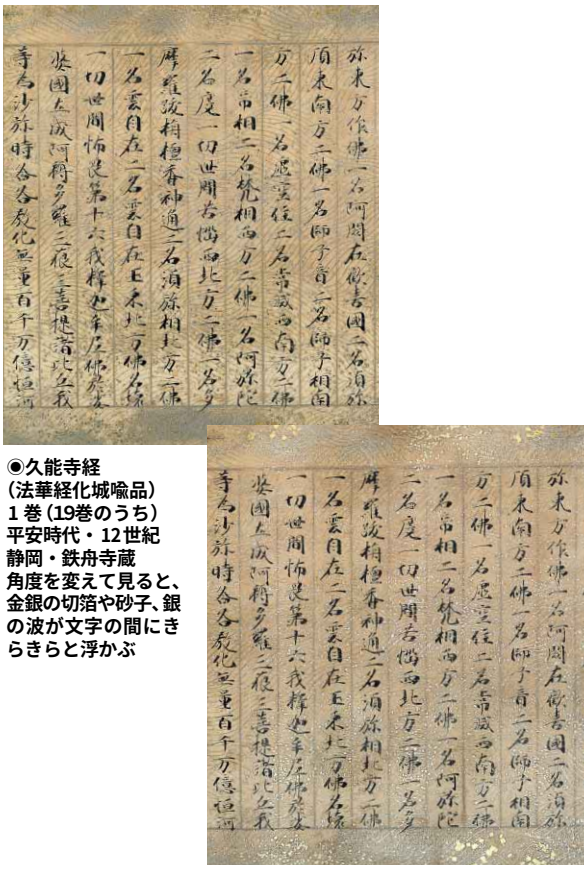
（沖松健次郎）

◉虚空蔵菩薩像　平安時代・12世紀
繊細さの中に迫力を感じる

■国宝室■

銀の波間にゆれる経文
久能寺経（法華経化城喩品）

12月9日(火)～2004年1月18日(日)　本館第12室



◉久能寺経
（法華経化城喩品）
1巻（19巻のうち）
平安時代・12世紀
静岡・鉄舟寺蔵
角度を変えて見ると、金銀の切箔や砂子、銀の波が文字の間にきらきらと浮かぶ

久能寺経は、平家納経に先行する平安後期の代表的な装飾経です。鳥羽上皇（鳥羽院）あるいは皇后の待賢門院（一一〇一～四五）の出家に際し、生前に死後の冥福を祈る逆修のために院と院を近くで支えた人々によって制作されました。『法華経』八巻を二十八の品（章）にわけて一人が一品を分担する一品経の遺品で、両院の出家時期から、永治元年（一一四一）の暮れより翌二年にかけての制作と推定されています。

今回展示する化城喩品は、金銀の切箔や砂子を惜し気なくかつ精微に撒いてから波文様を料紙に刷出し、そこに穏和で格調の高い世尊寺流の書が一体になった名品です。銀の波間に経文の浮沈するさまもぜひご覧ください。

（丸山猶計）

■工芸■

音の造形
遊びのかたち

12月9日(火)～2004年2月29日(日)　本館第15室（鎌倉・南北朝・室町Ⅱ）
12月16日(火)～2004年3月7日(日)　本館第16室（桃山・江戸Ⅰ）

「日本美術の流れ」展示の中で、鎌倉・南北朝・室町Ⅱと桃山・江戸Ⅰのコーナーでは、テーマを変えながら特集的な陳列をしています。ここでは他の展示室のように時代性を前面に出すのではなく、関連する作品を集めることによって、あるテーマを浮かび上がらせる手法をとっています。長大な本文の中に配されるコラムのように、少し脱線することにより、気分転換や、本来の問題に関するヒントにしていただければと考えています。

次回のこのコーナーでは、「音の造形」「遊びのかたち」と題して、楽器や遊戯具を展示いたします。これらは主に「楽しむ」という目的のために用いられたものですが、それがどのような「かたち」となって現れているのか……。「流れ」という長い物語を疲れずにご覧いただくためにも、肩の力を抜いてお楽しみいただければ幸いです。

（竹内奈美子）

源氏絵彩色貝桶
江戸時代・17世紀（第16室）
平安時代に起源がさかのぼる遊びの古典、「貝合せ」の貝を収める箱

■法隆寺宝物館■

心眼を開かせる密教法具

金鉢

常時展示中　法隆寺宝物館第5室

法隆寺に密教で使用される法具があることは、意外に思われるかもしれませんが、延喜年中（九〇一～二三）に真言僧寛延が別当に補任されたのをはじめに、平安時代中期から鎌倉時代にかけて密教的な要素も入ってくるようになり、江戸時代まで多くの密教法具が調進されました。

法隆寺に伝わる日本製の法具類で、もっとも古いのがこの金鉢です。金鉢はもともとインドの眼病の治療用具で、患者の眼膜を除去するのに用いられましたが、密教では衆生の無智の膜をとり、仏眼心を開かしめる法具となり、灌頂の儀式や、仏像の開眼供養に使用されました。鉆に深い匙面をとること、鬼目が三段に付けられていることなど、金鉢としても最も古様を示しています。

（原田一敏）

◎金鉢
平安時代・12世紀
法隆寺に伝わる古様の密教法具

■近代絵画■

絵の中の壺と本物の壺

京の舞妓

12月16日(火)～2004年1月25日(日)　本館第20室

画面いっぱいに描かれるのは、祇園の茶屋「吉はな」の君栄という舞妓、御舟（一八九四～一九三五）自身は、群青の絞りの着物がすばらしかったから、それを描きたかったのだといっています。絞りの模様や畳の目一つひとつを克明に表した細密な描写は、当時の批評家に「悪写実」と罵倒されて不評でしたが、陰影の一部に銅版画のように細い線を縦横に重ねるなど、従来の日本画にはない技法を用いた意欲的な作品です。画面の左側に描かれている壺は、『陶磁器百選』第一集（大正六年刊）の写真をもとに描き加えられたことが指摘されていましたが、奇しくもその壺が最近当館の所蔵となりました。あわせてごらんいただき、御舟の技術をお確かめください。

（松原　茂）

京の舞妓　速水御舟筆
大正9年（1920）　再興第7回院展出品作
壺は制作途中に描き加えられたものであることが、
10年前の修復時に判明した

色絵獅子牡丹文壺　伊万里
江戸時代・17世紀
絵の壺と見比べてみてください

■近代絵画■

嫉妬に燃える女の妻み

焔

11月5日(水)～12月14日(日)　本館第20室

世の中には、いちど見たら忘れられない作品というものがありますが、この絵はまさにそうした作品の一つです。光源氏の正妻・葵上を死に追いやった六条御息所の生霊がモデルで、『源氏物語』をもととした謡曲「葵上」から取材しました。桃山風の扮装にしたといいますから、藤の花に蜘蛛の巣模様の小袖は、縫箔を意識したものでしょう。肩口から前に垂らされた長い黒髪が、青白い肌をいっそうきわだたせています。「葵上」に用いられる能面「泥眼」にヒントを得て、絵絹の裏から眼に金泥を塗るという工夫もなされました。凄艶な中にも感じられる高貴な女性の品格の表現に、松園（一八七五～一九四九）が追求した女性美の方向性がうかがえます。

（松原　茂）

焔　上村松園筆
大正7年（1918）　第12回文展出品作
嫉妬に狂った女性の凄みと妖しい美しさが心をとらえます

■考古■

特集陳列

寄贈品でつづる

考古コレクションの形成と先人の足跡

11月5日(水)～12月14日(日)
本館特別第3室・特別第4室

当館の日本の考古遺物のコレクションは、戦前の徳川頼貞氏による大量の寄贈品（旧銅駄坊コレクション）を中核とし、戦前戦後の多数の寄贈品によって成り立っています。戦前では、銅駄坊コレクションのほかに、東日本の弥生時代の特異な墓制（再葬墓）の研究の端を発した杉原荘介氏の群馬県岩櫃山遺跡発掘調査による出土品や杉原氏に先んじて再葬墓を発掘していた民間の研究者田中國男氏による茨城県女方遺跡の出土品の一括寄贈、また杉原氏や後藤守一氏による代表的な縄文土器の寄贈など。戦後は、戦前から戦後にかけて東京都の多摩地域の縄文遺物を収集した塩野半十郎氏の大コレクション、先縄文（旧石器）時代後期細石器文化の代表的遺跡である新潟県荒谷遺跡の発見者星野芳郎氏のコレクション、田村淳正氏による近畿地方の縄文・弥生時代研究の標識遺跡となる大阪府船橋遺跡での多数の採集品の一括寄贈など。これらの寄贈品によって当館の考古コレクションが築かれ、展示等に欠かせないものとなってきました。今回の展示では、こうした考古学の基礎を築き、研究を発展させてきた先人の足跡を寄贈品でたどります。

（松浦宥一郎）

人面付壺
茨城県下館市女方遺跡出土
弥生時代・前3世紀　田中國男氏寄贈

■東洋館■

国・時代ごとの作風を比較

百済の緑釉・新羅の緑釉

9月17日(水)～2004年4月11日(日)
東洋館第10室

朝鮮半島西南部の百済では六世紀に緑釉陶器の製作が始まり、金属の鋺や瓶を模倣しました。東南部の新羅でも、近年の研究で、やはり六世紀に緑釉陶器が始まったとわかりましたが、新羅では、器形や文様が土器と共通しています。

百済と新羅では、緑釉の下の胎土も違います。百済では、青灰色など冷たい色で、堅く締まった胎土ですが、一方新羅ではピンクなど明るい色で、軟らかい胎土です。

写真の緑釉鉢は、以前、統一新羅の緑釉陶器として紹介されていましたが、韓国の国立中央博物館に所蔵されている百済緑釉托盞と同時に作られ、墓に埋められていたことが、昨年わかりました。百済の緑釉陶器だったのです。

今回は、覇権を争った両国の緑釉陶器、さらに統一新羅時代の緑釉陶器を展示し、国や時代ごとの作風の違いを紹介します。

（白井克也）

緑釉鉢
三国時代（百済）・7世紀
器面を削りだして金属器の形を再現している

はくぶつかん散歩 4

ほんとうは六頭いた？

東京国立博物館表慶館　ライオン

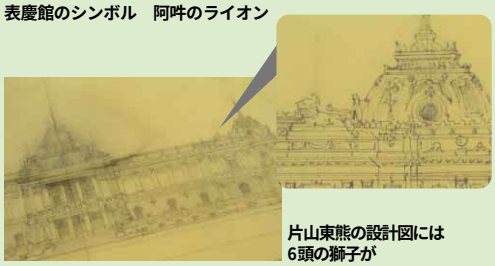
本館にむかって左側のドームのある建物が表慶館という名称であることはご存知でしょう。その名のとおり、明治三十三年（一九〇〇）五月、皇太子（のちの大正天皇）のご成婚奉祝記念として、東京市民有志によって企画され献上されたものです。

計画の当初は奉献美術館の名のもと明治三十四年八月着工、四十二年五月に開館式が挙行されました。設計は宮内省技師の片山東熊で、古代ギリシャ・ローマ建築を範としたと、ものの本にあります。

表慶館を特徴づけているのは緑青のドームと、中央階段脇に設置された阿吽のライオン像二体でしょうか。このライオンの作者は大熊氏広ですが、片山の最初の設計図では、正面入口の階段左右に各二体、左右のドーム脇に各一体、計六体が配されています。表慶館は何度か設計変更されていますから、片山も熟慮の末にライオンの数を減らしたのでしょうか。今の建物をみていると、この選択は正しかったような気がしますが、如何。ちなみに動物園入り口近くの小松宮像も大熊の作品です。

（上野仁哉）

表慶館のシンボル　阿吽のライオン



片山東熊の設計図には
6頭の獅子が

博物館に初もうで

東京国立博物館は新年2日から開館します

博物館のお正月展示のご案内です。東京国立博物館は、昨年に引き続き、新年二日から開館、お正月らしい展示と生け花で皆様をお迎えします。本館二階では二〇〇四年の干支、猿にちなんだ作品をあつめた特別展示を行います。また、伝統芸能の催しなどお正月らしいイベントも盛りだくさん。

新年はぜひ、東京国立博物館へ初もうでにお越しください。

三猿蒔絵印籠
塩見政誠作
江戸時代・18世紀

◎猿図　伝毛松筆
南宋時代・13世紀

狂言面　猿
元休作　江戸時代・18世紀

■新春特別展示「猿」

1月2日(金)～31日(土)　本館 特別第3室・4室

干支の猿が登場する名品が勢ぞろい。

【主な展示作品】

◎**埴輪 猿**　茨城県行方郡玉造町出土 古墳時代
◎**猿図**　伝毛松筆 南宋時代・十三世紀
猿曳図　狩野尚真筆 江戸時代・十七世紀
狂言面 猿　元休作 江戸時代・十八世紀
三猿時絵印籠　塩見政誠作 江戸時代・十八世紀
猿侯図　橋本雅邦筆 明治時代・十九世紀
◎**老猿**　高村光雲作 明治時代・明治二十六年（一八九三）　など

■こども向け 新春特別企画

博物館探険：申年編

1月2日(金)～1月7日(水)　＊5日は休館です

申年にちなんだテーマを設定し、関連した作品を探します。クイズ形式のワークシートをもってさあ、出発！

ワークシートは本館インフォメーションで配布します。（小・中学生対象　参加無料）

■その他のイベント

獅子舞、和太鼓、琴、猿回し

1月2日(金)～4日(日)

＊時間等詳細未定。東京国立博物館ホームページおよび本誌次号でお知らせします。

国宝カレンダープレゼント

1月2日(金)から4日(日)は各日先着100名の方に東京国立博物館の国宝カレンダーを贈呈します。

児童・生徒を対象とした美術体験学習

岩絵具って何？ 使ってみよう

当館では、小学校高学年から中学生を対象にした体験学習の講座を企画しています。今回取り上げるのは、日本の絵画作品に使用される「岩絵具（いわえのぐ）」です。岩絵具について学び、岩絵具を使ったり、また金箔の貼押し、当館絵画作品の鑑賞なども行います。普段あまり馴染みの無い岩絵具について理解を深めるとともに、作品により親しんでいただくきっかけとなれば幸いです。

第1回　12月20日(土)　13時30分～15時30分
対象：小学生5・6年生
第2回　12月21日(日)　13時30分～15時30分
対象：中学生
平成館小講堂
解説：ボランティア室　山口健児
＊定員各回25名、先着順
＊保護者の方が参加される場合は、申し込みの際にお知らせください。

【申込方法】
①氏名（ふりがな）　②住所　③電話番号　④希望日時を明記の上、往復はがき、FAX、電子メールにてお申し込みください。

【申込先】
〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館教育講座室
TEL・FAX 03(3822)3010
e-mail:edu@tnm.jp

東京国立博物館所蔵名品展
「Soul and Beauty of Japan－日本の美 日本の心－」
ヨーロッパで見た日本の美

講師　島谷弘幸
東京国立博物館
展示課長

**この夏から秋に、ドイツのボンで開催された日本美術名品展。
来春の帰国展を前に、ヨーロッパでの展示のコンセプトや
現地での反響などを、帰国間もない島谷弘幸展示課長からご報告いたします。**

長雨低温の日本とは対照的に、この夏ヨーロッパでは異常な暑さが続き、テレビや新聞でも話題になりました。実は、その暑い暑い夏、ヨーロッパのちょうど真ん中に位置するボンのドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホールで東京国立博物館の名品展「日本の美 日本の心」が開催されました。国宝三件、重要文化財十九件を含む百十七件を出品、東京国立博物館としては今までにない規模とレベルの海外展になりました。来年一月から上野での帰国展を予定していますが、今回は、ボンの展覧会場の構成にしたがって、ヨーロッパの人々に何を見ていただきたかったのか、また彼らがどんな風に感じてくれたのかを織り交ぜながらこの展覧会をご紹介したいと思います。

新しい日本美術展を

「日本の美 日本の心」は、企画段階から日本とドイツ双方で組み立てた展覧会です。

ドイツ側は、日本学の第一人者ヨーゼフ・クライナー博士（平成十五年度国際交流基金賞受賞）が、日本側は当館の西岡副館長と私、島谷がそれぞれの意見を出し合い、展覧会のコンセプトをつくることから始まりました。

まず最初に、浮世絵というヨーロッパに根強く残る日本美術のステレオタイプは排除したいという意向がドイツ側から出されました。では、日本文化の多様性を見ていただく、それも、今につながる文化の様々な側面を紹介するにはどこに焦点を当てたらよいのか。そこで浮上してきたのが、十五～十八世紀、室町時代から江戸時代にかけてでした。文化の担い手の中心が、公家、僧侶から武士や町人へと広がった時代です。それは、動乱のなか、たくさんの公家たちが京都を離れ、それに伴って京の文化が地方へ広がり、定着した時代でもありました。文化の担い手と享受者が飛躍的に広がり、増えた時代なのです。ここで形成された多様な文化が、現代につながる日本文化の基礎になっているといってもよいでしょう。日本とドイツの担当者は、この時代に焦点をあてた展示をしようということで、合意を見ました。このコンセプトが決まるまでに三カ月ほどかかりました。ドイツの有力紙のひとつであるケルニッシェ・ルントシャウはこの展覧会を評して、こう書きました。「ここではヨーロッパにおいて今まで決して見ることのできなかった日本を紹介する試みがなされている」と。この記事を見たときは、とてもうれしかったです。

「日本の美 日本の心」図録
鎌倉時代の伝源頼朝坐像（重要文化財）が展覧会を象徴する作品として図録のほかポスターやパンフレットにもデザインされた

では、展覧会場の構成にしたがって「日本の美 日本の心」をご紹介しましょう。

書院―唐ものを愛でる心

まず最初にご覧いただいたのは源頼朝の坐像です。少し時代はさかのぼりますが、武家の象徴として展示しました。堂々とした風格、なによりその造型の力強さから、この像がもっている精神性は十分に伝わったと思います。

そしてこのコーナーでは、武家の文化「書院」を取り上げました。

室町時代から、桃山時代にかけて、書院造りとよばれる武家の屋敷の様式が完成されました。その表座敷である書院には、大陸渡りの様々な美術や調度品が飾られましたが、それらを収集、鑑賞することが武家の最高の文化的楽しみとされました。そう、日本美術名品展の最初のコーナーでありながら、実はここのメインになるのは、無準師範の書跡や南宋の天目茶碗といった、中国から渡ってきた作品なのです。中国からの影響は、日本の文化史を通じて常に認められますが、この時代は大陸渡来の「唐もの」がとくに尊重されました。それを理解いただくとともに、この時代があってこそ、次の時代に「侘び茶」といった日本独自の美意識が生まれたのだということを見ていただきたかったのです。

木葉天目
南宋時代・12～13世紀
広田松繁氏寄贈
書院を飾った大陸渡来の美術品

京文化の担い手
―筆跡でたどる多様な感性

伝統的な京文化の担い手であった公家と僧侶の書を中心に展示しました。その筆跡を通して様々な感性のあり様を見ていただこうという試みです。

たとえば、室町時代第一の能書として有名な三条西実隆の書。端然とした美しさが魅力の作品です。室町時代には、茶道、華道、能楽などと同様に、書でも〝道〟の観念が重要で

上：詩懐紙　三条西実隆筆
室町時代・16世紀
左：偈頌　一休宗純筆
室町時代・15世紀
型の美しさと自由な美しさを対比してみよう

した。型を学び、型にはめて表現することに、精神性を見出しました。一方、禅宗の高僧、一休宗純の筆跡を見ると、書法にとらわれない自由さに目を奪われます。ここではそれぞれの美しさを感じていただくとともに、そこに多様な流れがあったことを示したかったのです。

実は、書の作品がヨーロッパの人々にどう受け止められるか心配していたのですが、国内の展覧会で「読めないから、わからない」と素通りしてしまう日本人が多いのに対して、日本語が読めない外国人は、まず「感じる」努力をしていたようでした。

茶の湯 ― 簡素な贅沢

大井戸茶碗 銘有楽、黒楽茶碗 銘末広、志野茶碗 銘橋姫など、利休によって大成された「侘び茶」の精神を伝える作品を集めました。茶室の模型も展示し、茶の湯の世界を紹介しました。無駄のない空間、簡素を旨とした道具だけで、身分や階級を超えてひと碗の茶を楽しむ。贅を尽くしていないかのような演出に心を尽くす。そういった精神の贅沢が伝えられたら大成功です。

暗闇に浮かび上がるような能面の展示

能楽 ― 東洋の神秘の美

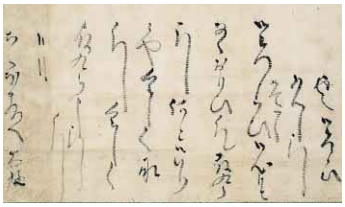
ここでは、能面と能衣裳を展示しました。笑っているのか、泣いているのか、どんな表情にも見えるミステリアスな面に来館者はかなり惹きつけられたようです。ここでは能面が壁面から浮かび上がるような照明が私たち日本のスタッフにとってとても印象的でした。海外に日本の作品を紹介すると、作品のもつ新しい表情や見方が引き出されることがあって、実に刺激的です。

武士の装いと生活 ― 人間家康に出会う

刀や甲冑といった武器・武具、武家の衣裳、その屋敷を飾った絵画や調度類、彼らの書などを展示しました。このコーナー最初の作品は、白地に赤い日の丸が印象的な白糸威二枚胴具足です。この勇ましい具足のすぐ後ろには徳川家康の書状を展示しました。

これは孫の千姫にあてた大坂夏の陣の後の見舞いの手紙です。漢字仮名まじりで思いのほどを書き送ったものですが、その筆の運びには上手い下手を超えた、天下人の風格が感じられます。

華やかな具足、冷たい光を放つ日本刀など、外国人のイメージするサムライの世界とともに、絵画・調度を鑑賞し詩作を愉しむ彼らの文化的な側面、そしてそこにある人間性も見てもらいたかったのです。



白糸威二枚胴具足
美濃岩村藩主松平家乗所用
江戸時代・17世紀
○書状　徳川家康筆
江戸時代・元和元年（1615）
戦の道具とともにその主人公たちの人間性にも着目

琳派 ― 革新のデザイン

最後のコーナーは、江戸時代に革新的なデザインで一世を風靡した琳派です。大胆な構図、優れたデザイン性は、そのまま世界に通じるものでしょう。

では、最後にもう一度、地元紙の記事を紹介しましょう。

「作品の中に刀、甲冑、茶釜などが含まれていることを西洋人は不思議に思うかもしれない。彼らにとって美術品とはダ・ヴィンチの「モナ・リザ」であり、デューラーの「四使徒」であり、刀はライン河畔の古城にあるものだからである。日本ではそうではない。日本では十七世紀に名人国安により製作された刀はデューラーの「四使徒」と同様「重要文化財」の称号を得る。

同様に、お茶をいれるというもともとは平凡な行為が日本では数百年の間に、芸術とよばれるのも当然なほど洗練された儀式になった」

さて、来春の帰国展を皆さんはどうご覧になるでしょうか。

（構成　小林　牧）

◎関屋図屏風　伝俵屋宗達筆・烏丸光広賛
桃山～江戸時代・17世紀　源氏物語に題材をとった琳派の作品

展覧会のポスターはボンの町じゅういたるところに

東京国立博物館所蔵名品展
Soul and Beauty of Japan ―日本の美 日本の心―

8月29日（金）～10月26日（日）
会場　ボン・ドイツ連邦共和国 国立芸術展覧会ホール
主催　東京国立博物館 ドイツ連邦共和国 国立芸術展覧会ホール
協賛　全日空　NHK

●帰国展のご案内
2004年1月27日（火）～3月7日（日）
会場　東京国立博物館　平成館
主催　東京国立博物館　NHK
＊ボンでの出品作品をご紹介します。

◆コンサート開催のお知らせ

クリスマス コンサート

からたちの花からフィガロの結婚のアリアまで、数々の名曲をお楽しみいただきます。

日　時　12月8日（月）19時～20時20分
場　所　東京国立博物館 平成館ラウンジ
独　唱　ワレンチナ・パンチェンコ（メゾ・ソプラノ）
ピアノ伴奏　井上 敏子
主　催　東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
演奏曲　一晩中踊りあかそう マイフェアレディより
からたちの花（山田耕筰）
すみれ（スカルラッティ）
ケルビーノのアリア フィガロの結婚より
（モーツアルト）　ほか
料　金　5000円（平常展観覧券付）約250席
全席自由

◇チケットのお求め方法◇

●当館正門観覧券売り場でチケット販売
受　付　開館日の9時30分～16時30分
ただし、特別展開催期間中の金曜日は
19時30分まで

●電話予約販売
申込先　TEL 03-3821-9270
（東京国立博物館渉外課）
受　付　9時30分～17時（月曜～金曜）
＊チケットは、当館正門観覧券売り場にて現金引き換えにてお渡しします
引換時間　9時30分～16時30分（開館日のみ）
ただし、特別展開催期間中の金曜日は19時30分まで、コンサート当日は18時から開演時間まで引き換え可能です

◆主な展示品リストについて

読者の皆様に展示の内容や作品をよりご理解いただくために、9・10月号から、解説や図版を伴うページを増やし、「平常展の主な展示作品」（展示作品名リスト）を廃止いたしました。展示作品名のリストについては、現在展示されている全作品のリスト、および展示予定作品のうち主なものを東京国立博物館ホームページ（http://www.tnm.jp/）で公開しています。ご来館の予定を立てる際の参考にしていただければ幸いです。

◆講演会中止のお知らせ

本誌661号でお知らせした11月29日（土）の講演会「アイヌ文化史入門」は、都合により中止となりました。

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究、平常展・施設整備等の充実に充てております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より一年（入会月の翌年同月末日まで）有効。

賛助会員には、特別会員と維持会員との二種類があります。

年会費
特別会員　100万円以上
維持会員　法人　20万円
個人　5万円

特　典
●特別展の特別内覧会にご招待
●国立博物館ニュースの送付
＊賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。
＊ご希望の方には資料および東京国立博物館賛助会員（TNM Members）入会申込書をお送りします。
＊お問い合わせは
東京国立博物館渉外課
渉外開発係
TEL 03-3822-1111（代）

東京国立博物館賛助会員　平成15年9月1日現在

特別会員
日本電設工業株式会社 様
東京電力株式会社 様
株式会社 コア 様
安田生命保険相互会社 様
株式会社 精養軒 様
毎日新聞社 様
日本経済新聞社 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社 大林組 東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社ミロク情報サービス 様
株式会社りそな銀行 様
東京ガス株式会社 様
TBS 様
LVMHモエヘネシー・ルイヴィトン・ジャパン株式会社 様
NHK 様
昭和鉄工株式会社　東京支社 様
株式会社鴻池組東京本店 様
株式会社東京新聞・中日新聞社 様
株式会社 電通 様
読売新聞東京本社 様

維持会員
三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社三冷社 様
東日本電信電話株式会社 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様
小金井造園株式会社 様
株式会社クマヒラ 様
財団法人ソニー教育財団 様
株式会社NTTドコモ 様
斎藤 京子 様
井上 萬里子 様
森本電気興業株式会社 様
田添 博 様
株式会社鶴屋吉信 様
株式会社東京美術 様
篠内 匡人 様
服部 禮次郎 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
日本通運株式会社 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
井上 静男 様
和田 喜美子 様　〈順不同〉

◆国立博物館巡回展　12月13日（土）～2004年1月18日（日）

「東京国立博物館所蔵 琉球資料展 琉球・沖縄へのまなざし」

東京国立博物館には、明治の中頃までに収集された作品を中心として、沖縄の工芸品や民俗資料が数多く収蔵されています。絵画をはじめ、古文書、金工品、陶磁器、漆工品、染織品、古写真など、様々な種類のものがあり、それらは、現在、およそ三〇〇件余りを数えています。

このたびの巡回展は、浦添市美術館等との共催により、こうした琉球資料の優品を約一二〇件選りすぐり、地元の皆様にご覧いただこうとするものです。東京国立博物館が収蔵する琉球資料をこれだけまとめて公開するのは今回が初めてのことであり、琉球・沖縄文化への理解を深めていただく一助となれば幸いです。

（松本伸之）

紅型衣装
黄木綿地菊牡丹雲尾長鳥模様
19世紀
鎖型という大きな型を用いて作られた見事な衣装

会場　浦添市美術館
主催　浦添市美術館　東京国立博物館
共催　琉球新報社　浦添市立図書館沖縄学研究室

東京国立博物館友の会＆パスポート

友の会　**年会費 1万円 発行日から1年間有効**

特　典　東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送や、友の会対象のイベント・講演会の開催、当館ガイドブックの進呈などさまざまな特典があります

パスポート　**一般 3000円 学生 2000円**
発行日から1年間有効

特　典　東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、各1回計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で

友の会

加入者名（振替先）　東京国立博物館友の会
口座番号　00160－6－406616
金　　額　1万円

＊振替用紙には郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号・職業・年齢・性別・メールアドレス（メールサービス希望の場合）を楷書でご記入ください

パスポート

加入者名（振替先）　東京国立博物館パスポート
口座番号　00120－3－665737
金　　額　一般3000円、学生2000円

＊振替用紙には申込区分（一般か学生）、郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号・学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください
＊振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください
＊振替手数料はお客様の負担となります

◆お問い合わせ
東京国立博物館渉外課　渉外開発係
TEL 03－3822－1111（代）

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期郵送をご希望の方は、年間（6冊分）1000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名（振替先）　東京国立博物館ニュース
口座番号　00100－2－388101

＊振替用紙には郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号を楷書でご記入ください
＊振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください
＊振替手数料は申込者のご負担となります
＊次号より送付ご希望の場合、締切は12月10日です

東京国立博物館利用案内

開館時間： 9時30分～17時、4月から12月の特別展開催期間中の金曜日は20時まで（入館は閉館の30分前まで）

休 館 日： 毎週月曜日（祝日、休日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月1日）。ゴールデンウイークおよび夏休み期間（7月20日～8月31日）は原則として無休

平常展観覧料金

一般420（210）円、大学生130（70）円
＊（　）内は20名以上の団体料金
＊障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください
＊満65歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの（生徒手帳、健康保険証、運転免許証など）をご提示ください

TOPICS

◆秋の夜長を光で演出

江戸開府四〇〇年を記念して、東京都が上野公園にある歴史的建造物のライトアップを行います。当館では本館、表慶館、黒門が選ばれました。本館は黄色味を帯びた光で重厚に、表慶館は白くエレガントな光で輝き、黒門は力強い構造と白壁のコントラストが美しく浮かびあがるでしょう。

当館のほか、以下の場所が明るい光に包まれます。金曜の夜間開館にお出かけの折には、公園エリアを巡ってライト・ハントをしてみませんか。

ライトアップ期間
10月10日(金)～12月31日(水)

主なライトアップ場所
東京国立博物館本館、表慶館、旧因州池田屋敷表門（通称黒門）、旧寛永寺五重塔、本坊表門、清水観音堂、上野東照宮、国立国際子ども図書館、旧東京音楽学校奏楽堂、黒田清輝記念堂、不忍弁天堂など

本館

表慶館

黒門

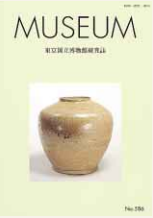
◆『MUSEUM』586号（2003年10月15日発行予定）の掲載論文

①茨城県北浦町出土の灰釉短頸壺について
吉澤悟（桐朋学園短期大学講師）

②東京国立博物館のサイン計画1
吉田知佳（当館デザイン室）

③（報告）ボランティアによるギャラリートーク
高梨真行（当館教育講座室）
玉蟲玲子（当館保存修復室）

＊購読のお問い合わせは当館ミュージアムショップ
TEL 03-3822-0088まで



Who's Who in 東博

警備ひとすじ34年 伝わる言葉でのご案内を

お客様サービス係長
田口 文作

昭和四十四年（一九六九）二月に警備係に配属されて以来、三十四年が過ぎました。最初は広すぎて覚えるのが大変だった構内も、今では報告を聞けば現場にいなくても大体の状況を把握し指示が出せるようになりました。混雑した展覧会として印象深いのはやはり昭和四十九年のモナ・リザ展。「横目でちらり三秒」と揶揄されたくらい、どんどん人を流すのが大変でした。このころは、展覧会に来る皆さんが求めるレベルも多様になり、お祭り騒ぎで見る時代ではなくなったように思います。

今年の四月、警備係はお客様サービス係という名称となり、来館者対応についての役割が増えました。「いらっしゃいませなんて言うな」という教育を受けた昔からすると随分変わりましたが、最前線でお客様と関わっていると言葉で伝えることの大切さ、難しさを感じます。また、お客様からはより高い質のサービスを求められていることも実感、大変なこともありますが、「ありがとう、また来るよ」の声に励まされています。

東京国立博物館ニュース 第662号 平成15年11月1日発行（隔月1回 奇数月発行） 編集／東京国立博物館広報室 ©東京国立博物館
発行／東京国立博物館 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 TEL 03-3822-1111（代表） ＊ホームページ〈URL〉http://www.tnm.jp/ 独立行政法人国立博物館ホームページ〈URL〉http://www.NatMus.jp/ 制作・印刷／㈱DNPアーカイブ・コム

東京国立博物館 11月・12月の展示・催し物

2003年11月

1	SAT	こどもミュージアム「測量っていいのぅ～！？」 秋期講座（事前申込制） 留学生の日（留学生入館無料・要学生証）
2	SUN	秋期講座（事前申込制）
3	MON	※1 千住真理子＆ベルリン室内管弦楽団コンサート 15:00／17:00
4	TUE	休館日
5	WED	11:30／15:30 14:00 14:00 列品解説「江戸の博物学」14:00 本館第19室
6	THU	
7	FRI	夜間開館（20:00まで） 11:30／15:30 13:30 ※2 茶会 庭園内応挙館 10:00／12:45
8	SAT	講演会 初めての東京国立博物館シリーズ 14:00 「中国書跡鑑賞入門」13:30 平成館大講堂
9	SUN	13:30
10	MON	休館日
11	TUE	列品解説「狩野秀頼筆観楓図屏風について」14:00 本館第17室
12	WED	11:30／15:30 14:00 14:00
13	THU	
14	FRI	夜間開館（20:00まで） 11:30／15:30 13:30 ※2 茶会 庭園内応挙館 10:00／12:45
15	SAT	※3 記念講演会 14:00 「地図文化史上の伊能図」13:30 平成館大講堂
16	SUN	講演会 古代の染織シリーズ⑦ 13:30 「作品について：袈裟・糞掃衣・さまざまな残欠類」13:30 平成館大講堂
17	MON	休館日
18	TUE	列品解説「米芾の行書三帖巻について」14:00 東洋館第8室
19	WED	11:30／15:30 14:00 14:00
20	THU	※2 茶会 10:00／12:45 庭園内応挙館
21	FRI	夜間開館（20:00まで） 11:30／15:30 13:30
22	SAT	※4 記念講演会 10:30／14:00 「聚光院と狩野永徳」13:30 平成館大講堂 14:00
23	SUN	13:30
24	MON	10:30／14:00
25	TUE	休館日
26	WED	列品解説 14:00 14:00 「那智山出土の仏教遺物」14:00 本館第4室
27	THU	
28	FRI	夜間開館（20:00まで） 13:30
29	SAT	※5 親子でびっくり!? 地図でマジック 10:30 平成館大講堂 14:00
30	SUN	13:30

2003年12月

1	MON	休館日
2	TUE	
3	WED	11:30／15:30 14:00 14:00
4	THU	
5	FRI	夜間開館（20:00まで） 11:30／15:30 13:30
6	SAT	10:30／14:00 14:00
7	SUN	13:30
8	MON	休館日
9	TUE	列品解説「藤原定家の書と人物」14:00 本館第13室
10	WED	11:30／15:30 14:00 14:00
11	THU	
12	FRI	夜間開館（20:00まで） 11:30／15:30 13:30
13	SAT	講演会 初めての東京国立博物館シリーズ考古学入門⑨ 「近世の考古学」 10:30／14:00 14:00
14	SUN	こどもミュージアム「測量っていいのぅ～！？」最終日 「伊能忠敬と日本図」最終日 「国宝 大徳寺聚光院の襖絵」最終日 13:30
15	MON	休館日
16	TUE	列品解説「明末清初の絵画」14:00 東洋館第8室
17	WED	11:30／15:30 14:00 14:00
18	THU	
19	FRI	夜間開館（20:00まで） 11:30／15:30
20	SAT	※6 体験学習 岩絵具って何？ 使ってみよう 13:30 平成館小講堂 14:00
21	SUN	※6 体験学習 岩絵具って何？ 使ってみよう 13:30 平成館小講堂 「煌きのダイヤモンド」最終日
22	MON	休館日
23	TUE	
24	WED	14:00 14:00
25	THU	
26	FRI	
27	SAT	
28	SUN	
29	MON	
30	TUE	休館日 12月29日～1月1日
31	WED	

＝ボランティアによる樹木ツアー 場所：前庭内
＝ボランティアによる浮世絵版画展示解説 場所：本館
＝ボランティアによる考古展示室ガイド 場所：平成館考古展示室
＝ボランティアによる法隆寺宝物館ツアー 場所：法隆寺宝物館
＝こどもミュージアムワークショップ 場所：本館特別第5室
（事前申込制、本誌4ページをご覧ください）

＊上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定は、インフォメーションカウンターでご確認ください
※1、2は有料イベントです（事前申込制、※1は完売）。※2について詳しくは本誌5ページをご覧ください
※3～5＝事前申込制（※5の申込方法は本誌4ページをご覧ください）
※6＝事前申込制（申込方法は本誌11ページをご覧ください）

〈京都国立博物館〉
10月11日（土）～11月24日（月・休）
特別展覧会「金色のかざり－金属工芸にみる日本美－」

〈奈良国立博物館〉
10月25日（土）～11月10日（月）
特別展覧会 第55回「正倉院展」